

もも管理特報 No. 2

令和5年3月20日
みな穂もも振興会
みな穂農業協同組合
富山県新川農林振興センター

1 生育状況

- ・「あかつき」の発芽は3月9～10日頃。
- ・「あかつき」の開花始めは、平年に比べ7～8日早い4/1～2日頃と予測される。
- ・新潟気象台発表の2週間気温予報（3/19発表）では3/31までの平均気温は平年に比べ高いと

見込まれており、1か月予報（3/16発表）でも向こう1か月（3/18～4/17）の平均気温は高く、特に期間の前半はかなり高くなると見込まれている。

果樹研究センター開花予測（3/15時点）

年次	あかつき	
	開花始期	開花盛期
R5年(予測)	4/1～2	4/4～5
R4年	4/9	4/11
平年	4/9	4/10



果樹研究センター
最新の開花予測
※3/6から公開



気象庁
2週間気温予報
(富山県)



気象庁
1ヶ月予報
(富山県)

2 病害虫防除

<ポイント>

- ・4月は、せん孔細菌病、灰星病の重要防除時期である。下記の時期を目安に、開花状況に合わせて防除を実施する。また、薬剤防除は、かけムラが発生しないように注意する。
- ・令和2年のように開花してから低温が続き、開花期間が長引く場合は、2回目防除からの散布間隔が14日以上開かないように、落花期になっていなくても3回目防除を実施する。

(1) 薬剤防除

【結実樹】

回数	散布時期	対象病害虫	薬剤名と希釈倍率	(参考)水100ℓ当たり薬剤量	10aあたり散布量	防除実施日(自己記入)
2	3/29～31頃 開花直前	せん孔細菌病	ムッシュボルドーDF ^{※1} (展着剤 マイリノー) 500倍 20,000倍	200g	350ℓ	
3	4/8～10頃 ^{※2} 「川中島白桃」 受粉後	せん孔細菌病 灰星病	アグリマイシン-100 ロブラール500アクア (展着剤 マイリノー) 1,500倍 1,000倍 20,000倍	66g 100cc 5cc	350ℓ	
特散	4月下旬頃まで 粗皮の粗くない 若い樹が対象	コスカシバ (日焼け防止)	ガットサイドS ^{※3}	1.5倍	樹幹部及び主枝に塗布	

※1 せん孔細菌病の多発園では、展着剤（アピオンE、1,000倍）を加用する。

※2 縮葉病の被害葉は見つけ次第、基部から摘み取る。

※3 成分MEPを含む殺虫剤の樹幹処理は、落葉後～萌芽前までいずれかの剤（ガットサイドS、トラサイドA乳剤、ラビキラー乳剤、ガットキラー乳剤、サッチューコートS）1回のみを使用とする。

- ・農薬散布時は、近隣に告知するとともに、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意してください。
- ・また、使用前に農薬ラベルの登録内容をよく確認して使用してください。

(2) 耕種的防除

【灰星病】

- ・ 花腐れ症状（花卉が褐色になり腐る症状）は、見つけ次第切除し、園地外で処分する。

【せん孔細菌病】

- ・ 芽の枯れ込み、葉芽の奇形、不発芽、枝が黒～褐色に変色等の春型枝病斑が疑われる枝は切除し、園地外で処分する。



花腐れ症状



春型枝病斑

3 今後の管理

<ポイント>

- ・ **【着果管理】** 本年のあかつきの生育は平年に比べかなり早く、花卉は見えないが丸くふくらみ赤く色づいてきており（3月17日時点）、摘蕾の作業適期を迎えている。
- ・ **【着果管理】** 開花期の低温による結実不良のリスクを減らすため、摘蕾、摘花で除去する花蕾の量は、全体の70～80%程度とする（一発強摘蕾：90%摘蕾は極力控える）。

<摘蕾、摘花で残す花蕾の数の目安>

果枝長	慣行
短果枝	先端付近に1～2個
中果枝	中央部に2～3個
長果枝	中央部に4～8個
花蕾1個当たりの枝の長さ	8cm

- ・ **【着果管理】** 花粉のない品種（「川中島白桃」、「なつき」等）では、摘蕾は行わず、開花率が50%程度と80%程度に達した頃に、人工受粉を実施する。
- ・ **【肥培管理】** 樹勢の弱い樹に対しては、すべての花蕾、幼果を摘み取り、追肥を行う。

<施用量の目安>

目的	施用時期	肥料名	樹齢等	1樹あたり 施用量
追肥	弱樹勢樹の兆候が みられた時点	硫安	成木（6年生～）	1kg
			若木（3～5年生）	500g

- ・ **【苗木・幼木の管理】** ①定植した苗木は、土壌水分の変動に弱いため、マルチを設置し、こまめにかん水を行う。②主枝を伸ばしたい方向、角度に誘引する。③1か月に1回程度の間隔で追肥（硫安100～200g程度）を行う。
- ・ **【凍霜害対策】** 開花早い年は、凍霜害発生のリスクが高い。雑草の草丈が長い場合は、短く刈り込み、冷気の通りを妨げる防風ネットや障害物等は除去したうえで、摘蕾、摘花で除去する花蕾の量は、全体の70～80%程度に留める。

○3月下旬～4月 ももの作業チェック表

作業内容	作業のポイント	実施適期	実施 予定日 (自己記入)	実施日 (自己記入)
摘蕾	<ul style="list-style-type: none"> 開花期の低温による結実不良のリスクを減らすため、一発強摘蕾（90%摘蕾）は行わず、70～80%程度（慣行）とする 花粉のない品種（「川中島白桃」等）は上向きの蕾を軽く落とす程度とする 成木、若木の主枝・垂主枝先端や伸ばしたい枝、定植1～2年目の樹は全て摘蕾する ※3 今後の管理（1）参照	3月下旬～ 4月上旬		
人工授粉	<ul style="list-style-type: none"> 花粉の無い品種（「川中島白桃」、「なつき」等）に対し、50%程度開花時および80%程度開花時に実施する 晴れた気温の高い日に行う 	開花期		
防除の実施	※2 病害虫防除（1）参照			
灰星病・せん孔細菌病罹病枝の切除	<ul style="list-style-type: none"> 落花期以降に症状が発見しやすくなる 症状のある部分の枝を切除し、園地外で処分する ※2 病害虫防除（2）参照	開花期～ 落花期以降		
弱樹勢樹対策	<ul style="list-style-type: none"> 全ての花蕾を摘み取り、追肥を行う 	兆候を確認した 時点		
苗木の管理	<ul style="list-style-type: none"> 定植した苗木は、土壌水分の変動に弱いため、マルチを設置し、こまめにかん水を行う 	定植後、随時		
凍霜害対策	<ul style="list-style-type: none"> 雑草の草丈が長い場合は、短く刈り込む 冷気の通りを妨げる防風ネットや障害物等は除去する 	4月上中旬		